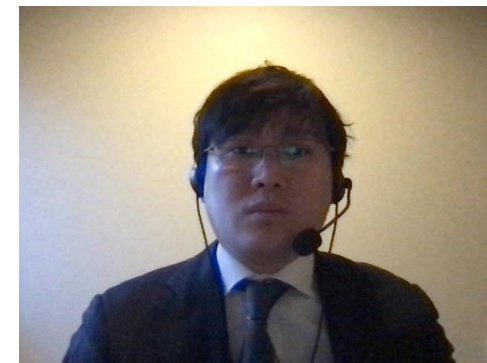


コロナ禍での地域枠医学生を対象とした 保健所・地域病院実習実現までの経緯と一考察

蒸野 寿紀^{1,2)}, 山野 貴司^{1,2,3)}, 北野 尚美^{1,4)}, 池田 和功⁵⁾, 松本 政信⁵⁾,
雑賀 博子⁵⁾, 和田 安彦⁵⁾, 新谷 浩子⁵⁾, 上野 雅巳^{1,2)}, 宮下 和久⁶⁾

- 1) 和歌山県立医科大学地域・国際貢献推進本部地域医療支援センター
- 2) 和歌山県地域医療支援センター
- 3) 和歌山県立医科大学医学部循環器内科学講座
- 4) 和歌山県立医科大学医学部公衆衛生学講座
- 5) 和歌山県保健所長会
- 6) 公立大学法人 和歌山県立医科大学



日本公衆衛生学会 COI 開示

発表者名：蒸野 寿紀, 山野 貴司, 北野 尚美, 池田 和功, 松本 政信,
雑賀 博子, 和田 安彦, 新谷 浩子, 上野 雅巳, 宮下 和久

演題発表に関連し、発表者らに開示すべき
COI 関係にある企業などはありません。



背景

- 和歌山県立医科大学医学部のカリキュラムは、地域でのプライマリヘルスケアを実践するための、地域保健・地域医療教育が不十分である。
- そのため、本学地域医療支援センターは、和歌山県で将来地域医療を担う地域枠医学生を対象に、2017年度から夏季休業中に大学カリキュラムを補完するための保健所・地域病院実習（夏季地域実習）を実施している。

[第77回本総会で報告]

1. 保健所実習 (地域医療枠1-2年生, 1日間)

目的: 保健行政や公衆衛生の現場体験

2. 病院・診療所実習 (地域医療枠3-5年生, 2日間)

目的: 卒後研修予定先の県内へき地医療拠点病院等での実習

3. 病院実習 (県民医療枠4年生, 1日間)

目的: 卒後研修予定先の県内公的病院での実習



目 的

- コロナ禍で、正課の学外実習中止と足並みを揃えるとして、2020年度は地域枠医学生を対象とした大半の県受託事業の実施が見送られた。
- 当該学生にとって地域で予防医学や公衆衛生に接する貴重な機会が奪われ、将来の和歌山県の保健医療への負の影響が懸念された。
- そこで、社会医学系指導医ネットワークを活用して、地域枠医学生に対する夏季地域実習再開を模索し、2021年度の実現を目指した。その経緯を報告して共有し、あらためて医学生の地域実習の意義を考察した。



方 法

地域枠医学生を対象とした夏季地域実習の2021年度再開に向けて、発表者らはそれぞれの立場で関与した。

コロナ禍にあって、医学生の地域における実習が実現した事例として、実習実現に向けた取組の経緯を記述した。実現のための条件の事前協議、全体のスケジュール、準備段階から協働した実習先施設群、学生の参加状況、中止事由、報告書作成について検討した。学生達の発言や報告書原稿も参考に、医学生の地域実習について考察した。



結果1: 実習実現のための条件について(事前協議)

条件1: 感染対策の徹底・・・行動記録, 事前にPCR検査陰性を確認すること

1. 健康管理アプリ入力の徹底(健康管理センターと学生課が管理、情報共有)
2. 実習日直前(3-7日前)の事前PCR検査(県受託事業費にて附属病院に委託)
3. 少人数での実習(保健所実習の条件: 2人以下/1保健所)

保健所実習: 従来は1-2年生の異学年混成チーム ⇒今年度の対象学年は1年生に決定

条件2: 現地実習中止の判断基準設定・・・明確に設定, 直前の中止に柔軟に対応 全員中止(保健所実習は, 現地実習不可の場合はオンライン実習で対応)

1. 県内への緊急事態宣言・まん延防止等重点措置発令
2. 学生・教職員のCOVID-19感染

該当者のみ中止

1. 実習日3日前から当日までに発熱, 風邪症状, その他体調不良が生じた場合
2. COVID-19患者への濃厚接触, または, SARS-CoV-2感染が疑われる場合
3. 実習施設から中止の申し出があった場合



結果2:2021年度夏季地域実習計画を作成(全体, 実習先別)

1. 各実習施設担当部門(者)への受入可否の意向確認(4月-6月)

病院実習先:例年の全実習先が学生受入に同意

保健所実習先:5保健所が学生受入に同意

2. 事前 オンライン説明会(目的等を説明, 自習用資料配付, 実習先・実習日決定)

病院実習

(5月28日:地域医療枠3-5年生 29名の83%出席)

(5月31日:県民医療枠4年生 24名の79%出席)

保健所実習説明会(7月2日:1年生地域医療枠10名全員出席)

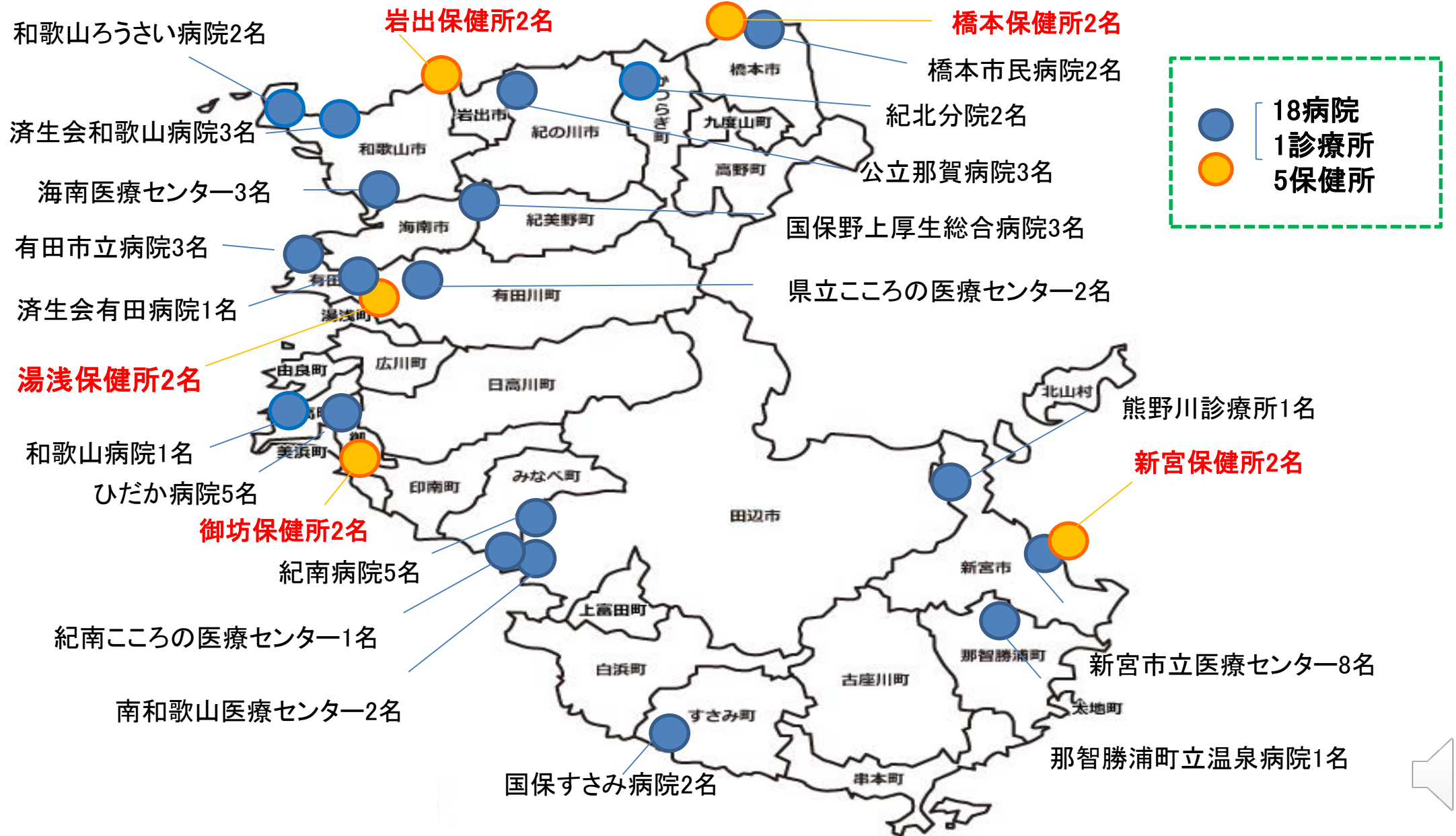
3. 事前 新型コロナウイルスPCR検査実施(7/20-8/17)

4. 夏季実習期間(7/26-8/20)

5. 報告書作成・配布(9月-11月)



結果3:2021年度実習実現に向け協働した実習先施設一覧



結果4: 夏季実習の参加者数と参加割合の経年推移

2021年度夏季地域実習の参加数(割合)

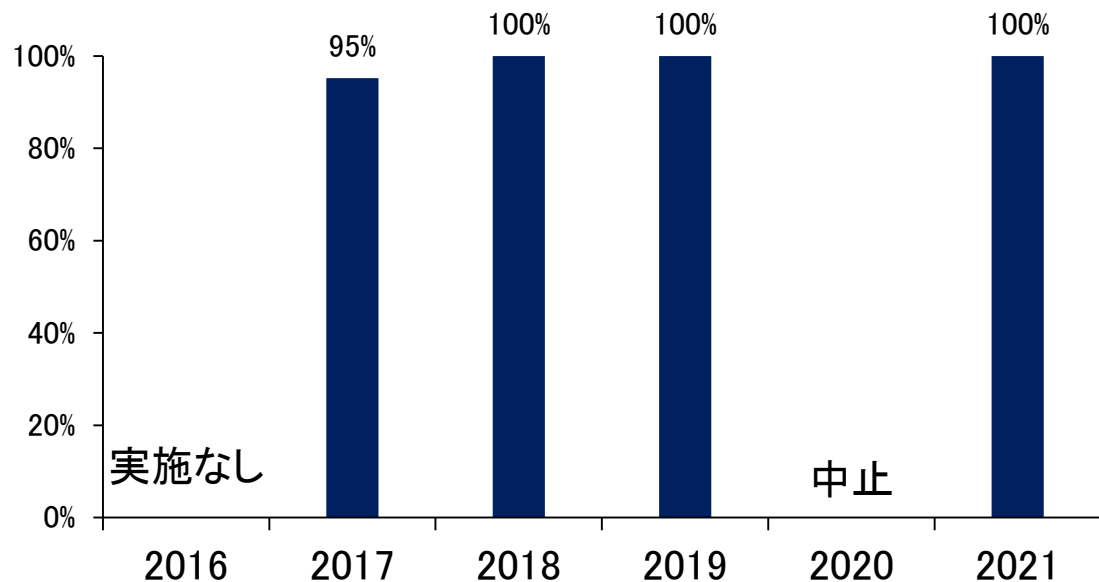
保健所実習 10名(100%)

病院・診療所実習 27名(93%※)

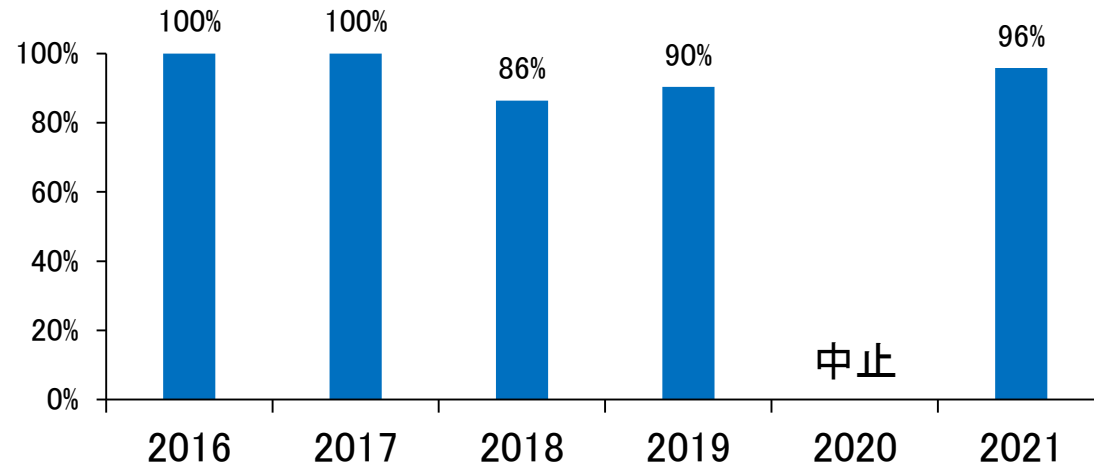
病院実習 23名(96%※※)

実習の一部中止事由: 実習日3日前から当日までに体調不良を認めた(※)
実習病院でのCOVID-19患者発生のため(※※)

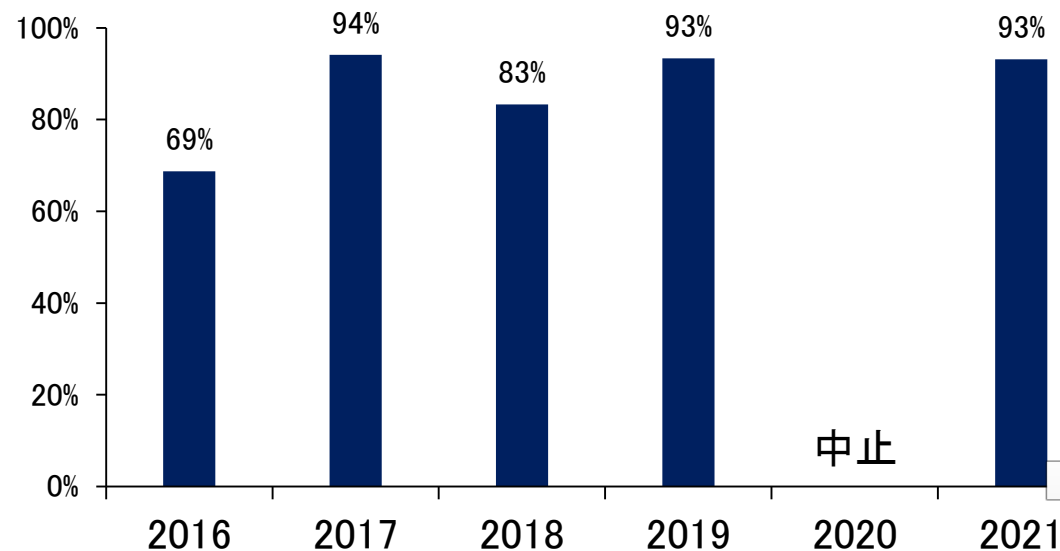
保健所実習(対象: 地域医療枠 1-2年生, 2021年度は1年生のみ)



病院実習(対象: 県民医療枠 4年生)



病院・診療所実習(対象: 地域医療枠 3-5年生)



結果5: 事後の振り返り(グループワーク, 報告書作成)

オンラインでのグループワーク(2021年8月21日実施)

異学年交流会を兼ねてグループワークを企画, 学生出席者44人(81%)
夏季地域実習の振り返りの場として, グループワークを設定した。



報告書作成

学生全員が実習報告書(所定の様式)を提出した。

当センターは, 例年どおり, 報告書を製本し冊子にまとめ,
地域枠学生の課外活動を可視化した。

実習協力施設にフィードバックするとともに,

報告書は彼らの業績と位置付け, 本学図書館への設置を依頼した(寄贈)。

本年度の実習報告書は, 例年と比較すると, **地域での新型コロナウイルスへの対応に関する報告が目立ち, 特に保健所実習に参加した地域医療枠1年生の報告書には, 住民生活を衛るための最前線の感染症対策について多く記述されていた。**

報告書配布による地域枠学生生活動の広報及び事業報告

地域枠医学生, 県医務課関連, 県内保健所・医療機関, 学内全講座・関連事務部門



考 察

- ✓ 2020年度に引き続き, 2021年度も全国の医学部でほとんどの学外実習を行えず, コロナ禍は, 医学部全体で地域保健・地域医療教育の大きな障害となっている。
- ✓ 和歌山県保健所長会及び県内の実習先地域病院との事前協議によって事業目標を共有した。感染対策の条件をクリアするため, 健康管理センター・感染制御部・中央検査部・学生課等の学内関係者との交渉を丁寧かつ重層的に行い, 計画的に進めた。その結果, 2021年度に地域枠医学生を対象とした夏季地域実習を再開できた。
- ✓ 地域枠を対象とした県委託事業の実施主体である和歌山県地域医療支援センターが学内に設置されていたことは, コロナ禍での医学生全体の学修環境や課題, 地域枠学生の状況, 関連する学内諸事情を踏まえて, 的確な情報連携に有利であった。
- ✓ コロナ禍で地域実習を行った学生は, 地域での医師の役割を見聞することができ, 例年以上に地域におけるプライマリヘルスケアの重要性を認識することができた。また, 地域枠医学生達が, 受け入れ側(保健所担当等)をエンパワメントしたかもしれない。



結 論

- 新型コロナウイルス流行2年目(2021年度)に, 早い段階から夏季地域実習の事業目的を共有して学内外との対話を重層的に行い, 地域枠医学生を対象に夏季地域実習を再開した.
- 和歌山県地域医療支援センターが大学内に設置されており, 医学部と地域枠医学生を取り巻く具体的で的確な状況把握によって, 関連する部門間での情報共有・連携に有利であった.
- 県保健所長会と社会医学系指導医ネットワークが, 保健所実習再開を下支えした.
- 将来, プライマリヘルスケアの実践を求められる地域枠医学生にとって, 例年以上に, 保健医療と公衆衛生のリーダーとしての資質を育むきっかけとなったことが伺えた.



謝 辞

地域枠学生の夏季地域実習にご尽力いただいた学内外の全ての関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

本発表に当たり、和歌山県地域医療支援センターから関係する資料提供を受けたことをここに記し、関係職員の皆様に感謝申し上げます。

発表内容について／夏季地域実習報告書の送付等ご希望される場合
連絡先: 北野尚美 (E-mail: naomiuk@wakayama-med.ac.jp)

